

経営比較分析表（令和4年度決算）

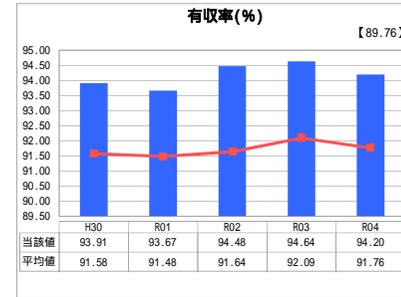
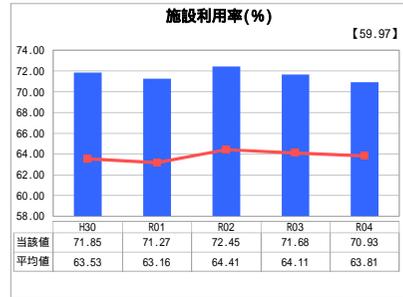
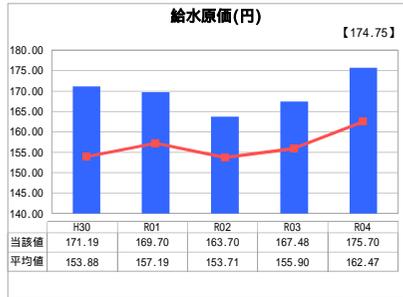
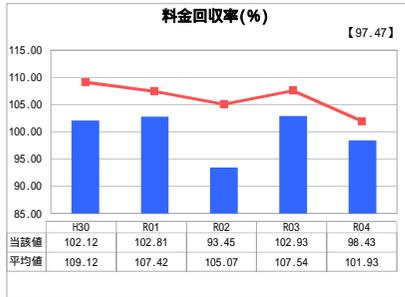
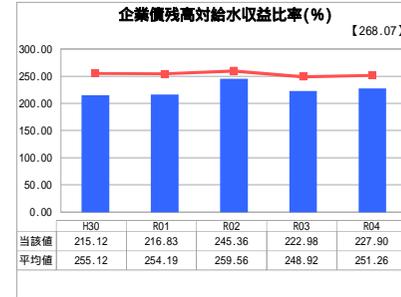
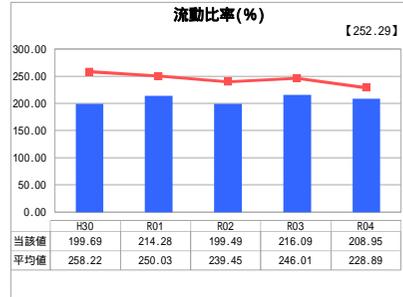
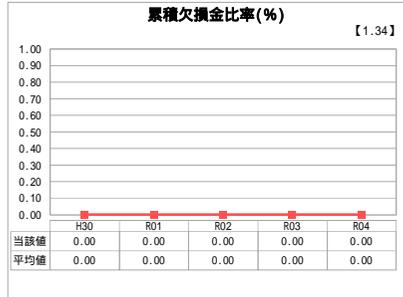
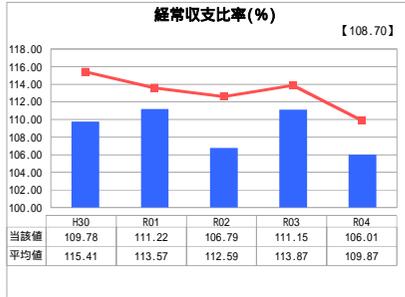
兵庫県 西宮市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A1	自治体職員
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	64.43	99.98	2,777	

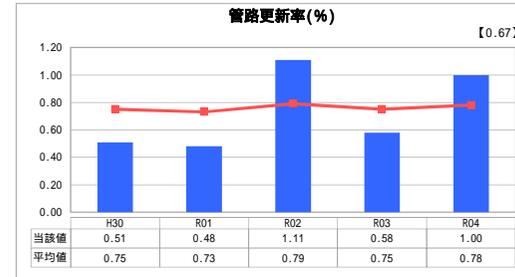
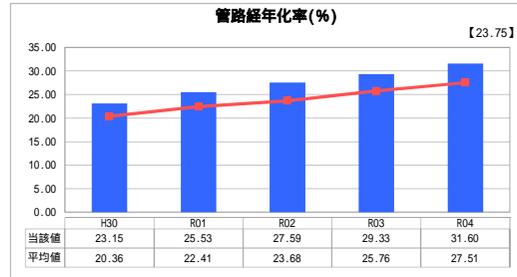
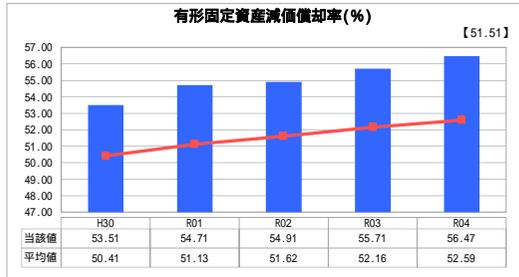
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
482,796	99.96	4,829.89
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
482,113	73.49	6,560.25

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
● 類似団体平均値(平均値)
【】 令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

有収水量の減少に伴う給水収益の減少及び物価高騰に伴う費用の増加により、経常収支比率・流動比率・料金回収率は前年度より悪化し、平均値を下回っている。また、給水原価も平均値に比べ高くなっている。

企業債残高対給水収益比率は、平均値を下回っているが、有収水量の減少に伴う給水収益の減少により微増傾向にある。

施設利用率は、受水が主な水源となっていること、また浄水場の統廃合により施設能力の適正化を図ってきたことから、平均値を上回っている。なお、有収率についても、管路の維持に努めた結果、平均値を上回っており、施設の効率性は良好といえる。

2. 老朽化の状況について

本市の配水管の約70%が、昭和45年から平成11年の30年間で布設されたもので、法定耐用年数を用いた管路経年化率からは管路の老朽化が進んでいくと見込んでいる。

今後は、老朽化による管路破損事故を未然に防ぐとともに、災害に強く早期復旧が可能な水道システムの構築を目指し、管路の重要度が高いものから着実に更新・耐震化を進めていく必要がある。

全体総括

本市は、平成28年度に料金改定を実施して事業を継続していくための資金を確保し、経営戦略に基づき水道施設の耐震化・老朽化対策など必要とする施策・事業を進めている。

給水人口の減少に伴い有収水量が今後一段と減少していく中で、引き続き必要とする施策・事業を進めていくため、さらなる経営改善と経営基盤の強化に努めていく。